



SS 科学基礎 (第1回大学出張講義)

平成27年5月1日(金)に、第1学年の生徒241名を対象として、宇都宮大学農学部教授の大久保達弘先生に出張講義をしていただきました。講義の演題は「日光戦場ヶ原湿原と森林の生態系保全」についてです。

講義では、まず大久保先生から自己紹介、研究内容についてのお話がありました。先生は、森林を資源のみならず生態系や生物多様性の視点からとらえ、その管理、再生、修復に向けた研究を進めているそうです。特に、現在は栃木県那珂川流域、北タイの熱帯山地、中国南部の石灰岩山地にて里山林利用が植物多様性維持に及ぼす影響、ボルネオ島の熱帯山地里山林を代表するブナ科樹種のドングリの多様性および福島原発事故の里山林生態系に及ぼす影響にも研究テーマを広げているそうです。

次に本題に入り、主に「湿地とは」、「日光戦場ヶ原湿原の遷移と乾燥化促進」、「日光戦場ヶ原湿原周辺の森林植生の保全」、「日光戦場ヶ原湿原植生へのシカ食害と対策」についてのお話がありました。

湿地の定義を定めたラムサール条約や湿原の種類など一般的内容に加え、日光戦場ヶ原湿原の植生遷移など地元の湿原に関する説明もして下さいました。また、日光戦場ヶ原周辺の森林管理の重要性やシカ被害の常態化と密度管理の必要性についても理解することができました。生徒たちは、先生の言葉に集中し、メモをとるなどし、真剣に講義を受けていました。また、先生は講義後の生徒からの質問にも丁寧に答えてくれました。

このように、日々の授業の中でなかなか聞くことのできないお話を聞きことができ、生徒たちにとってとても良い経験になりました。

後日提出されたレポートには、「湿原と森林の関連性や生態系について学ぶことができ勉強になった。」、

「湿原を守るには多大な労力が必要であることがわかった。」、「この講義で得た知識を日光戦場ヶ原自然探究に活かし、実際に自分の目で確認したいと思った。」など様々の感想が寄せられました。

本校SSH活動の一環として実施している、日光戦場ヶ原探究活動や奥日光環境学習等につなげることのできる有意義な講義でした。



「講義の様子」



「講義中の生徒の様子」



「質疑応答の様子」